

野外活動センター及び青少年ルーム 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】 野外活動センター・青少年ルーム
 【指定管理者名】 特定非営利活動法人 大東市青少年協会
 【評価対象年度】 令和 7 年度
 【施設所管課名】 産業・文化部 生涯学習課

業務内容について評価

条例・協定書等に基づき、適切な管理・運営を行っています。

施設の利用者人数については、大阪・関西万博の開催による人の動きの変化の影響を受けたことに加え、年間 52 週のうち 27 週が雨天となるなど天候不順が重なったこともあり令和 7 年度は 14,461 人となっています。(2,904 人減 -16.7% R6 : 17,365 人 R5 : 16,338 人)

施設の運営業務については、施設予約について令和 7 年 3 月より公共施設予約システムの対象施設となり 1 年が経過しましたが運営・業務について適切に管理し、施設利用者の利便性及び満足度向上に寄与しています。引き続き、HP・SNS をはじめとした多様な広報活動を行い、施設利用率向上に努めていきたいと思っています。

施設管理に係る設備等の修繕・清掃では、修繕箇所を的確に補足し、早急に対応されています。また軽微なものについてはワーカーズと呼ばれる青少年協会のリーダーとボランティア協会員で構成されるチームによる活動を 286 回実施されています。大阪府立消防学校とワーカーズの協働による施設美化活動については、地域連携の面はもちろん、費用の削減の面からも大いに評価できます。

青少年ルームでは、自治会でのこども会をはじめとする青少年の健全育成に関する相談業務等を適切に行いました。

自主事業においては、親子対象の「味噌作りを楽しむ会」、「民具×米作り体験」や、手ぶらで楽しめる「ソロキャンプ」などの継続事業や、アーチハウス冷暖房費・電源サイト使用料の徴収など安定的な収入確保につなげています。また大東市こども会育成連絡協議会への事務支援や校区こども会の運営について、おまかせキャンプやリーダーのクリスマス派遣を行うなど、青少年育成に向け重要な役割を担っていただいていることは評価に値します。

野外活動センターの目的とする野外活動及び集団生活を通じて青少年の健全な育成と、自然教育等による市民の心身の健全な発達と豊かで潤いのある市民生活の形成に向け、施設管理と事業実施に継続的な創意工夫が行われています。

利用者満足度について評価

利用者への「お客様アンケート (180 件)」の回答では、『とても良かった』と回答した方が 82.8%、となり昨年より減少しましたが、『よかった』と回答した方は 16.1%であるため、それを含めると、昨年同様、肯定的な評価が大半を示す結果となっています。特にスタッフ対応に関しては高い評価が確認されており、接遇面における満足度が高く、これはスタッフやワーカーズの方の意識の高さや、他の施設では行えないようなきめ細やかな接客によるものと評価できます。また、メールマガジンや SNS を通

じた情報発信等、魅力発信を行うことによって、アンケート以外でも民間サイト上の口コミ評価においても高い評価を得ていることが示されています。

キャンプ利用者層や形態は年々変化しているため、現状分析を行い、多様な広報活動を駆使しながら利用者の意見やニーズを積極的に取り入れて施設の快適性を向上させることで、サービス向上に繋がる改善に努めていただきたいと思います。

収支状況について評価

収入においては、大阪・関西万博の開催に伴う人の動きの変化や、年間を通じた天候不順の影響により利用者数が前年より減少したため施設利用料は減少しました。一方で事業内容の工夫や施設環境の改善を行うことで事業収入は増加し、トータルとして昨年並みの収入水準を維持しました。

支出については、事業費の支出は昨年度並みに抑えていますが、近年の物価高騰の流れもあり人件費、物件費（光熱水費）の増加割合が大きくなっています。最終的な収支は2,064,516円の赤字となりました。今後も、利用率、参加人数の増加や新たな事業の実施に取り組んでいただき、安定的な経営によるサービス向上を実現されることを期待します。

総合評価

野外活動センターは、単なるキャンプ場ではなく、青少年の健全育成を目的の一つとしています。

指定管理者4期目（3年目）を迎え、こども会等との連携、小学生から始まり中学生・高校生・大学生・社会人、そしてその子どもへと循環していく枠組みは全国的にも数少なく、豊富な経験とノウハウを最大限に発揮されています。業務の充実とともに利用者からの信頼感を継続して獲得していることが、アンケートや民間サイトの情報からも確認でき、その点を評価しています。

業務や事業での取り組みにおいては、webやSNSツールでの広報活動が年々拡充されており、単にSNSツールを使用しているだけでなく、利用者目線にたった内容となっているなど創意工夫がなされていることを評価しています。また、過去から行われているワーカーズとリーダーによる修繕等の取り組みは、大人と青少年がコミュニケーションを図りながら行うことで、技術や経験の継承が図られているとともに、経費削減にもつながっています。

また、自主事業においては、過去におこなったアーチハウス空調設置やオートキャンプ場の電源サイトはその利用を更なる収益化につなげています。また、年度末には自動草刈機を導入し、デジタル技術も活用しながら経費削減についても積極的取り組みがなされており、今後の施設機能向上に寄与することを期待します。

今後も子ども・青少年の健全育成は重要な課題であることから、現状を分析し、将来に向けた魅力的な施設運営と社会的ニーズを捉えた事業実施の推進に期待します。